

平成27年1月14日
日本生命保険相互会社

保有投資用ビルにおける震災時の対応強化について

～建物安全度判定サポートシステムの導入～

日本生命保険相互会社（社長：筒井義信、以下「当社」）は、当社保有の投資用ビルにおける震災時の対応強化として、建物安全度判定サポートシステム「q-NAVIGATOR」導入に、今般、着手いたしました。

「q-NAVIGATOR」は、株式会社小堀鐸二研究所（社長：五十殿侑弘）、Takusu株式会社（社長：麻生義継）の2社が開発し、パナソニック システムネットワークス株式会社（社長：高木俊幸）が全国的な設置工事・保守・監視等を行うものです。

「q-NAVIGATOR」導入により、地震発生後概ね10分程度で建物構造の安全性を推定することが可能になります。これまで製品化されているシステムは、主に超高層ビル向けで、対象に一定の制限があるものが大半でした。「q-NAVIGATOR」は、ビルの高さによらず、中低層のビルに対しても導入が可能であり、今後、当社が全国に保有する全投資用ビル（※）を対象に、順次導入を進めてまいります。中低層ビルを含めた全投資用ビルを対象にこうしたシステムを導入するのは、不動産業界でも先進的な取り組みです。

当社は、東日本大震災の際、多くのテナント様からビルの安全性についてのお問合せをいただきました。また、2013年4月から、東京都では「東京都帰宅困難者対策条例」が施行され、各テナント様は、発災後概ね3時間以内に建物への残留可否を判断し、従業員の一斉帰宅を抑制することを努力義務として課されており、こうした動きは全国的に広がりを見せております。

このような背景から、当社では、発災時、ご入居いただいている各テナント様に対し、より迅速かつ正確に建物の状況を把握し、情報の提供ができる体制を構築すべく検討を行ってまいりました。

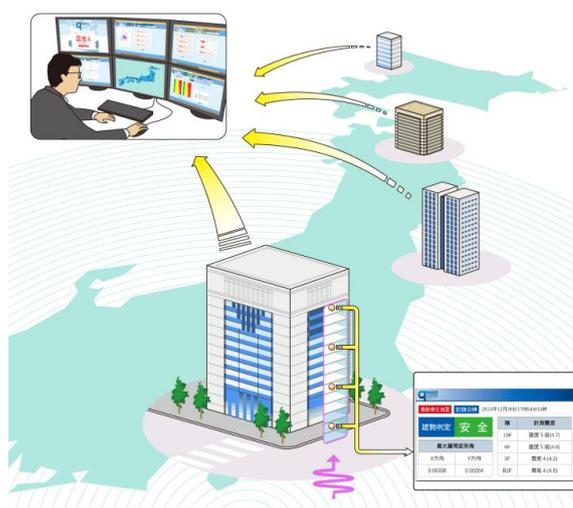
当社では、ご入居いただいているテナント様へのさらなる「安全」「安心」の提供のため、今後も防災対策やBCPサポート等の取組みを強化してまいります。

（※） 各ビルの特徴を踏まえ、一部のビルにおいては、「q-NAVIGATOR」以外の製品も検討します。

以 上

【建物安全度判定サポートシステム「q-NAVIGATOR」について】

ビル内の一定間隔フロア毎に設置した加速度センサーの計測データに基づいて、建物のひずみを算定し、建物構造の安全性を自動解析するシステム。地震発生後概ね10分程度で建物構造の安全性を推定することが可能。



システム概要図（全体イメージ）



発災時画面（設置ビルにおける計測震度を表示）



判定画面イメージ

